

令和3年度 学校評価（最終評価）

徳島県立池田支援学校

教育目標	重点目標	活動計画と評価指標		評 価		学校関係者の意見	次年度に 残された課題
		活動計画	評価指標	活動計画の実施状況と 評価指標の達成度	総合評価 (評定)		
1 児童生徒一人一人に応じた学習や生活する力の向上	<p>「小・中・高がつながる」学びの推進</p> <p>【小学部】 (1) 『からだ元気！健康学習』をテーマに「身なりを整えること」や「保健・衛生」に関する日常生活スキルを獲得する。</p> <p>【中学部】 (2) 協働して活動するために、必要なルールやマナーを知り、学校生活においてルールやマナーを守って活動することができるようになる。</p> <p>【高等部】 (3) 授業で学んだことで地域貢献活動に参加し自己肯定感を高める。</p> <p>【進路指導課】 (4) 近隣の福祉施設の仕事内容を体験することで、高等部卒業後の進路について関心を高める。</p> <p>人権意識を育てる児童生徒指導の充実 【人権教育課】 (5) 自尊感情を育み、学習活動への意欲が高まる教育活動を推進する。</p>	<p>(1) 健康学習内容表から目標を選択して指導する。内容表は「できる」「できない」「未指導」のチェック方法とし、児童全員を対象に4月中に事前評価、12月に事後評価をする。</p> <p>(2) ルールやマナーの学習を積み重ね、学習した項目について、記録したり、自己チェックできるようにする。</p> <p>(3) 地域貢献活動をすることで、褒められる経験、認められる経験、感謝される経験を受け、自分ノート（キャリアパスポート）に記録する。地域貢献活動の事前事後に生徒へのアンケートを実施する。</p> <p>(4) 福祉施設の活動内容をもとに令和2年度作成の「クッキー作り、袋詰め」「弁当盛り付け」「造花組立」の3つの教材を各学部で活用する。</p> <p>(5)-1 児童生徒の自尊感情の育成に関する研修会を企画・運営・実施する。</p> <p>(5)-2 学部ごとに児童生徒の発達段階に応じた指導目標を設定し、指導後の評価を実施する。</p>	<p>(1) 事後評価において、対象児童全員について、事前評価と比較したとき「できる」が増え、かつ「未指導」が減っている。</p> <p>(2) 毎月重点項目を明確にし、自己チェックにおいて、「できた、守れた」の評価が、80%以上である。</p> <p>(3) 事前アンケートより事後アンケートで自己肯定感の向上が伺える回答が増加する。</p> <p>(4) 生徒アンケートを行い、「各福祉施設の作業内容を知ることができた。」など進路について関心の高まりを感じられる回答が7割以上となる。</p> <p>(5)-1 外部講師を招聘し、年間1回以上、人権教育研修会を実施する。</p> <p>(5)-2 教職員アンケートを実施する。指導目標を達成した児童生徒の割合が8割以上となる。</p>	<p>(1) 健康学習内容表を基に設定した目標を児童全員が達成した。児童の実態により設定した目標の数は異なるが、全員について「未指導」が減り「できる」が増えた。</p> <p>(2) 今年度の重点項目「時間を守る」「あいさつをする」「さんづけ呼称」「丁寧な言葉遣い」について、後期後半に評価週間を設け、自己チェックを行った。「できた、守れた」が100%の生徒が、24名、90%の生徒が2名、となり評価指標を達成することができた。</p> <p>(3) アンケート結果は次のようになった。 ①「あなたは、貢献活動のメンバーに選ばれてよかったですか？」は、「思う」との回答が実施前45%から85%に増加した。②「授業で学んだことで貢献することをどう思いますか？」は、「良いと思う」との回答が実施前60%から95%に増加した。③「今回の活動で喜んでくれると思いますか？」は、「思う」との回答が70%から88%に増加した。④「今後も違う形で地域貢献に参加したいと思いますか？」は、「参加したい」との回答が、30%から92%に増加した。⑤「自分に自信があります(つきました)か？」は、「自信がある(ついた)」との回答が34%から94%に増加した。 特に、⑤のアンケート結果では、大幅に増加しており自己肯定感の向上が伺えた。</p> <p>(4) 全学部でのアンケート結果は、「仕事のことが分かった。」「また作業をしてみたい。」「仕事をしてお給料をもらいたい。」「施設の仕事が分かった。」など関心の高まりを感じられる回答が8割で、卒業後の進路について関心を高めることにつながった。</p> <p>(5)-1 8月に「自尊感情」と「ポジティブな行動支援」をテーマにオンラインにて外部講師による研修を2回実施した。</p> <p>(5)-2 10～12月の間に児童生徒の自尊感情向上を図る期間を設定し、各学部での児童生徒との関わり方や学習環境に工夫をする取り組みを実施した。12月に教員に事後アンケートを実施した結果94%の教員が目標に応じたポジティブな変容があったと回答した。</p>	<p>【A】</p> <p>各学部とも目標を達成できた。 小学部では、健康学習をテーマに生活に必要な日常的スキルの獲得に取り組み、中学部では、協働するために必要なルールやマナーについて学び、高等部では、授業で学んだことを生かした地域貢献活動とおして、自己肯定感の大幅な向上を図ることができた。 進路指導の取組では、近隣施設での作業内容を体験することで、福祉施設の仕事について関心をももち、卒業後の生活についてイメージすることができた。 外部講師による研修を生かし、学習環境や児童生徒への関わり方を工夫したことで、児童生徒の主体的な行動が増加するとともに、教員の意識にもポジティブな変容がみられた。 「IKESHI やまびこコンサート」の企画・運営において、全学部の児童生徒が係や役割を担い、集団の中で活躍することによって自尊感情を育むことができた。</p>	<p>小→中→高と3ステップで学びの段階を積み重ねることを意識して、最終的に地域に出ることを逆算して「どう育てるか」を考えて教育活動を展開してほしい。</p> <p>小学部では「自己の自立」、中学部では「身近な社会に出て協力する」、高等部では「地域や社会との連携を積極的に行う」ことをそれぞれ重視してほしい。</p> <p>個々の児童生徒の実態に応じたやり方を選択し身に付けられるように教育活動を展開してほしい。</p> <p>学校では具体的な内容によりシミュレーションを行い、校外でのフィールドで発揮できるような指導の展開が望ましい。</p> <p>地域と連携した教育活動を展開するに当たり、地域の文化や習慣を児童生徒が知る機会をつくることを大切にしていきたい。また、SDG's など時代に応じた取組も継続して行ってほしい。</p> <p>卒業生の進路先の具体的な情報などを積極的に広報してほしい。</p> <p>教育活動の明確な目的化や改善を図るための評価手続きとして、事前・事後の評価を行うことで、具体的な評価を行うことを徹底してほしい。</p> <p>自己肯定感を育て自尊感情を育むため</p>	<p>学部間の教育内容や教育的支援の系統性や一貫性について検討を行うこと。</p> <p>個々の児童生徒の認知・障がい特性に応じた指導・支援方法の充実に努めること。</p> <p>家庭・地域生活で学びの成果が発揮できるような教育活動を展開すること。</p> <p>地域をフィールドとした学習の積極的な展開や地域の文化・習慣を取り上げた学習実践を行うこと。</p> <p>卒業生の進路情報に関する情報提供の充実に努めること。</p> <p>教育活動や教員研修の評価について、具体的な指標に基づく事前・事後の評価方法を実施すること。</p>

	<p>【特別活動・保健衛生課】 (6) 児童生徒会の一員として、一人ひとりが役割を持ち、集団の中で活躍できる機会を設定することで自尊感情を育む。</p>	<p>(6) 地域の音楽バンドを招いて年に1回「IKESHIやまびこコンサート」を開催する中で、「楽器係」「会場係」「司会係」「盛り上げ係」など一人が1つ係を担当する。</p>	<p>(6) コンサート後に発達年齢に応じたアンケートを実施し、「満足した」「楽しかった」「協力できた」など肯定的な意見が8割以上となる。またコンサートを通して、一人ひとりが係や役割を担うことで児童生徒が主体的に行事運営することができるようになる。</p>	<p>(6) バンド「カモンズ」の方と日程や時間帯、実施方法について打ち合わせを行い、予定通り実施することができた。各学部に演奏希望曲を調査し先方に伝え、みんなが楽しめるコンサートとなった。児童生徒会が司会進行を行い、一人一人が楽器を演奏して参加することができた。アンケートでは肯定的な意見が8割以上となり、目標達成となった。コロナ感染予防対策として全校児童生徒を2つの縦割りグループに分けて実施した。</p>	<p>の取組の充実を図ってほしい。また、ハードスキルに偏らず、地域に出て必要とされるソフトスキル(コミュニケーション力)をしっかりと身に付けられるようにしてほしい。</p>	<p>児童生徒の自己肯定感を育て、自尊感情を育む教育活動の充実を図ること。</p>
<p>2 教職員の専門性・資質・指導力の向上</p>	<p>危機管理体制の整備、安全・安心な学校づくりの推進 【生徒指導・施設課】 (1) 実践的な研修・訓練等を通して、緊急時対応の際に教職員一人ひとりが適切かつ迅速に行動するために必要な意識・技術の向上を図る。</p> <p>専門家等と連携した授業研究及び支援方法の改善 【研究課】 (2) 事例研究や授業改善を目的とした研究協議の充実を図る。</p> <p>(3) 専門性を高める教職員研修の充実を図る。</p>	<p>(1) 児童・生徒所在不明時、不審者侵入時、災害発生時等の様々な緊急時に備えた教職員のより実践的な研修や訓練を実施する。</p> <p>(2)-1 外部専門家と連携した学校コンサルテーションを実施する。</p> <p>(2)-2 学部単位で授業改善を目的とした研究協議を実施する。</p> <p>(3)-1 徳島型メンター制を参考にした校内研修体制を構築する。</p> <p>(3)-2 各課と連携し、教職員のスキルアップを目的とした研修を企画・運営・実施する。</p>	<p>(1) 研修や訓練を、年間で合計4回以上実施し、教職員対象の事後アンケートにおいて「技術の向上が図れたか」の問いに対する肯定的な回答が8割以上となる。</p> <p>(2)-1 学校全体で2事例以上の学校コンサルテーションを実施する。実践者向けアンケートで「実践研究に取り組んで良かった」との回答が100%となる。</p> <p>(2)-2 各学部ごとに研究授業の研究協議を年間1回以上実施する。授業者向けのアンケートで「授業づくりのヒントを得た」との回答が90%以上となる。</p> <p>(3)-1 年間7回以上メンターチームでの研修を実施する。教員向けのアンケートで「実施して良かった」との回答が80%以上となる。</p> <p>(3)-2 年間7回以上のスキルアップ研修を実施する。受講者アンケートで「今後の指導にいかすことができる」との回答がすべての研修で80%以上となる。</p>	<p>(1) 1月に「学校危機管理における研修や訓練に関するアンケート」を実施した。アンケートの結果より、今年度実施した火災避難訓練や防災職員研修等の5つの研修や訓練を通して、「技術の向上が図れた」という教員が9割以上であった。</p> <p>(2)-1 小学部2事例、中学部1事例に取り組んだ。各学部2回目実施後の実践者向けアンケートでは、「実践研究に取り組んで良かった」との回答が100%であった。</p> <p>(2)-2 小学部2回、中学部3回、高等部3回の研究協議を実施した。授業者向けのアンケートでは、「授業づくりのヒントをとっても得た」との回答が100%であった。</p> <p>(3)-1 年間9回(研究協議含む)のメンターチームでの研修を実施した。全日程終了後に実施した教員向けアンケートで「実施してとてもよかった」「実施してよかった」との回答が100%であった。</p> <p>(3)-2 夏季休業と冬季休業に合計10回のスキルアップ研修を実施した。各研修毎に受講者アンケートを行った結果、「今後の指導にとってもいかすことができる」又は「今後の指導にいかすことができる」との回答が100%であった。</p>	<p>【A】</p> <p>実践的な研修・訓練をとおして、緊急時に教職員一人ひとりが、適切かつ迅速に行動するために必要な技術の向上を図ることができた。また外部講師を活用したコンサルテーションや、メンターチームでの研修、長期休業期間中に行ったスキルアップ研修により、児童生徒理解や授業力のスキルアップを図ることができた。</p> <p>教員のスキルやキャリア向上に向け、ルーブリック評価の手続きを参考にし、具体的な評価項目を複数も受けた事前事後の評価を実施し、個々の教員による成果や課題の見直し、組織としての成果や課題の把握を行ってほしい。</p>	<p>教育活動や教員研修の評価について、具体的な指標に基づく事前事後の評価方法を実施すること。</p>
<p>3 家庭・地域・関係機関との連携</p>	<p>地域と連携した教育活動の推進 【渉外課】 (1) 地域と連携したPTA活動の充実を図る。</p> <p>【情報教育課】 (2) GIGAスクール構想に関わる学校での取り組みについて発信し、保護者や地域住民の理解と啓発を促す。</p>	<p>(1) 近隣の福祉施設等と連携し、保護者の希望を反映したPTA研修会や施設見学会を実施する。</p> <p>(2) 教職員のGIGAスクール構想に関わる取り組みの充実化を図るためICT活用の校内研修を行う。</p>	<p>(1) 研修について事後アンケートを行い、「地域福祉施設等の理解が深まった」との回答が8割以上とする。</p> <p>(2) GIGAスクール構想に関わる本校での取り組みを紹介した記事をホームページで6つ以上掲載する。</p>	<p>(1) 施設見学会は十字会を見学予定、PTA研修会は池田学園課長より「障がい児福祉の現状について」講演予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で中止となった。研修希望40名の保護者全員に資料を配付して福祉施設と連携した活動ができた。</p> <p>(2) 10月に1回、冬期休業中に2回、ICT活用の校内研修を行うことができた。ホームページで、GIGA端末の取り組みを紹介した記事を各学部2つずつ、計6つ掲載することができた。</p>	<p>【A】</p> <p>PTA研修会、施設見学は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったが、資料を配付し「障がい児福祉の現状」について情報提供した。一人一台端末の取組事例を学校HPで公開し、保護者や地域住民の理解啓発を図ることができた。またICT活用についての校内研修を行い、教員のスキルアップ</p> <p>保護者が必要としている日々の教育活動の様子や進路支援に関する情報提供などを積極的に行ってほしい。</p> <p>児童生徒の教育活動の充実に向けて、居住地校交流や地域施設を活用した作品展などの開催などを今後も行ってほしい。</p>	<p>保護者の教育活動や進路支援に関するニーズの把握や情報提供の充実を図ること。</p> <p>ICTの活用やインターネットを通じた情報発信など、教育の充実に加えて、学校の取組についての理解を促</p>

協働をおとした学校づくり	<p>幼・小・中・高校等への相談・支援体制の充実 【支援教育課】 (3) 地域や関係諸機関に本校の取り組みについて発信し、特別支援教育の理解や啓発の充実を図る。</p>	<p>(3)-1 HPに本校巡回相談員の活動の様子、研修会の啓発や研修中の様子、学校見学の様子等を掲載する。</p> <p>(3)-2 本校児童生徒が関わる施設放課後等デイサービスへ学校の取り組みや様子が分かるリーフレットを作成し、配布する。</p>	<p>(3)-1 HPに本校巡回相談員の活動の様子、研修会の告知や研修中の様子等を2か月に1回以上更新し、本校の取り組みについて発信していく。</p> <p>(3)-2 作成したリーフレットを前期1回、後期に1回配布し、特別支援教育の理解や啓発の充実を図る。</p>	<p>(3)-1 HPに本校巡回相談員の活動の様子等を2か月に1回以上更新し、本校の取り組みについて発信することができた。夏季体験入学についての案内と冬季の研修会の告知についても発信することができた。</p> <p>(3)-2 前期に1回、後期に1回作成したリーフレットを、関係諸機関に配布することができた。</p>	<p>を図ることができた。学校HPに巡回相談員の活動の様子を公開したり、関係諸機関にリーフレットを配布し、特別支援教育についての理解啓発を図ることができた。</p>	<p>日々の教育活動の取組について、積極的に校外での教育活動を通じて地域住民に知ってもらおうようにするとともに、ICT・インターネットの積極的な活用や箒蔵とことんの活用を通じた広報・啓発活動なども進めてほしい。</p>	<p>進するための広報・啓発を図ること。</p>
--------------	--	---	---	--	--	---	--------------------------